



心地よい春風が吹き、日増しに春めいてくるこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。これからの卒業・入学シーズンは、人と人が接触する機会が増えることから、マスクの着用や手洗い・手指消毒、密を避ける工夫など「新しい生活様式」をしっかりと定着させ、引き続き、感染予防対策への御協力をお願いいたします。

さて、今回の東区だよりでは、感染予防対策を講じながら、区民の身近な生活の中で必要不可欠な「安全・安心なまちづくり」の活動に熱心に取り組まれている地域団体を紹介します。

また、区民の皆様実践していただきたい、「防災」や「交通安全」の取組についても紹介していますので、ぜひ最後までお読みください！

うら面では、託麻エリア
6校区での「ちょこっと
パトロール」や、東町校
区での「ホームページ作
成の取組」などについて
紹介しています！➡

熊本地震の経験と教訓を生かし、未来へつなぐ！秋津校区防災連絡会の取組

東区内で熊本地震での被害が一番深刻だった秋津校区では、平成30年4月に「校区防災連絡会」が設立され、防災訓練や地区防災計画の策定、校区独自の防災マップの作成など、日頃から、校区の防災力向上に取り組まれています。

令和2年7月には、コロナ禍での災害発生に備え、市指定避難所である秋津小学校と東野中学校において、避難所での発熱者等の対応について、検討が行われました。

また、「避難所における新型コロナウイルス感染症対応の手引き」を作成し、校区内3か所の市指定避難所で、役員による避難所開設訓練を開催。

訓練では、コロナ禍での避難所開設を経験した市避難所担当職員から、受付や避難スペースでの感染症対策についての説明を聞き、役員が避難者役と運営役に分かれ、実際に受付や体温計測などを行い、多くの課題が見つかりました。

今後は、課題解決に向け話し合いを続けるとともに、地域住民の安心の受け皿、そして地元根差した防災組織として運営していきたいとのことです。



▲受付で体温を測り、発熱者や体調不良者は別室へ案内



校区独自の地区防災計画と防災マップ(地震編・洪水編)



▲ブルーシートを敷き、一人あたりの避難スペースを確認

自分の命は自分で守る！~日頃からの災害への備え、できていますか？~

平成28年の熊本地震から間もなく5年が経とうとしています。今後も地震や台風、記録的な大雨などの「予測できない災害」が起こるかもしれません。

大規模な災害が発生した場合、電気・ガス・水道などのライフラインが止まったり、道路の損壊などにより救援物資がすぐには届かない可能性もあります。

いつ起こるかわからない災害に、日頃から備えておきましょう。

【 地震への備えでは… 】



しっかりと固定!

家具の固定や配置の工夫



食料・飲料の備蓄や非常持出品の準備



避難場所・避難経路の確認と家族間での話し合い

防災
ハンドブック
(熊本県発行)



➡ 避難する際の注意点など災害時に必要な情報や水・食料の備蓄方法など、日頃から備えておくべきことがまとめられています。ぜひ御活用ください!

チェック!

洪水、土砂災害、高潮、津波を統合した熊本市統合型ハザードマップはこちら➡

